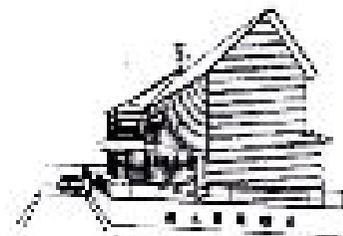


<今朝の聖書から> テレビの天気予報の時間に、アナウンサーがこんなふうに天気予報をしていました。「午後から晴れに向かうそうです」というのがそれです。“何何だそうです”とか、言っていたという伝え方は簡単です。何故かという、別に何といっても、今この話している私とは関係のないことだからでしょう。このような会話が28節にさっそく出てきます。“バプテスマのヨハネだと、言っています。また、エリヤだと言い、また、預言者のひとりだと言っている者もあります”と答えています。おそらくもっとほかの話も聞いたでしょうが、イエスを悪くいついた話はしないで、先生ですから、よい評判と思えるようなことは、何倍にもして伝えたかもしれません。それではあなたは、と会話は続いています。私たちがいろいろな話を聞く世界に住んでいますが、一つ一つ答えなければならない会話は実に疲れるものです。“私”を出さない中で、あえてイエス様は、私たちも同じ質問を受けているのですが、“それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか(29節)”と問われるのです。“ペテロが答えて言った、「あなたこそキリストです」(29節)”と続いています。告白です。このような前提のもとにイエス様は、真理・奥義あるいは救いの成就について語られました。その語り方が、あまりにもストレートであり、事実だったので“ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめたので(32節)”ということになります。殆どどの英語訳では rebuke と訳されている、“いさめる”という言葉は、思いとどまらせるとか、譴責(けんせき)するというような意味で、自分の管理下でコントロールしようというような意味でしょう。弟子たちが見ている前で“弟子たちを見ながら、ペテロをしかって言われた、「サタンよ、引きさがれ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」(33節)”とペテロのことをサタン呼ばわりされることにつながります。もし誰かに本気で“悪魔!”と言われたら、腹を立てるか、自分より偉い人だったら、そこには行かないことになるのが世の中でしょう。ペテロはそのどちらをも行いませんでしたし、まず私たちは、主が弟子たちをこの上もなく、神様として大切にしておられ、また信頼もしておられたことを思い出しましょう。“救いの成就”を伝え托す者に“サタン”と言われました。ということは、私たち信仰を託されている人々にも、“サタン”といわれることがあるのです。例えば十字架の出来事を、“だそうです”と語ったり、事実を美しく作り変えてしまう時でしょう。

# 週報

2010年 3月 7日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

振替口座 00890-6-214042